

# きょう憲法記念日

# 民主の改憲論尻すぼみ

3日の憲法記念日を前に、神戸新聞社は夏の参院選兵庫選挙区(改選数2)への立候補予定者6人に、憲法改正に対する考えを聞いた。民主党は衆院選マニフェストで「自由開進な憲法議論」を掲げたが、政権交代後は党内の議論がしぼみ、立候補予定の2人は慎重な立場を示した。一方、自民党の候補予定者は改憲を叫び、保守層に訴えかける。(永田憲亮)

## 参院選立候補予定者(兵庫選挙区)

### ・憲法改正に対する考え

水岡 俊一 <b>民 主</b>	国民の議論がさらに喚起されるべきだ
三橋 真記 <b>民 主</b>	9条や安全保障では、国民の議論が尽くされていない
末松 信介 <b>自 民</b>	前文で自主憲法を明確にし、9条で自衛隊を軍と明記
堀内 昭文 <b>共 産</b>	日本の安全平和の環境に、9条は必要だ
井坂 信彦 <b>みんな</b>	衆参両議院は一本化すべき。9条の精神には賛成
高木 義彰 <b>社 民</b>	9条で自衛隊を軍隊と認め、自国の防衛を考えるべき (敬称略)

## 政権交代で姿勢に変化?

# 自民、保守層へアピール

兵庫選挙区の立候補予定者

政権交代後、議席の民主党と連立政権を組んだ民主党。鳩山首相は改憲を持論としていたが、現在は党の憲法調査会もなくなり、憲法議論は急速に「ダウンタウン」した。

民主連盟の水岡俊一氏(58)と新人三橋真記氏(32)は、国民を巻き込んだ憲法議論が不足している」と指摘。水岡氏は「改憲議論の前に、憲法の精神を広く知らせる必要がある」と、現段階での改正には反対との態度を明らかにした。

これに対し、自民現職の末松信介氏(54)は、自衛隊を「自衛軍」と明記するよう求め、民主との違いをアピール。自民党は参院選を視野に保守色を強めているが、党憲法改正推進本部の出席者は低調だ。一方、共産新人



の堀内昭文氏(39)は9条の堅持を強調し、改憲には反対する。みんなの党新人の井坂信彦氏(36)は二院制に疑問を呈し、衆参両院の一本化を提言した。

また、今月18日に施行される国民投票法の投票権者が「18歳以上」となっていることについて、末松、井坂氏は賛成の立場。これは民主党の要求で選挙権の18歳引き下げなどを狙い、法律に反映さ

れた経緯もあるが、三橋氏は若者の責任感の醸成を課題に挙げた。参院選米軍普天間飛行場移設問題では、民主の2人が「沖縄だけに負担を押し付ける

べき」として、堀内氏は「米

国に無条件返還を求めるしかない」と強調した。政治団体「幸福実現党」新人の高木義彰氏(40)は、憲法改正で自衛隊を軍隊と認めるべきとし